

東京技術士会

卓越した技術で社会貢献

設立10周年 記念式典開く

東京技術士会（二宮孝夫代表理事）は14日、東京都北区王子の「北とぴあ」で設立10周年を祝う記念式典を開いた。技術士のさらなる品位の保持と、技術的な能力の向上を図るとともに、地域住民や地方自治体、企業における科学技術の向上と、地域経済の発展に寄与するという会の基本理念を再確認することも、今後10年の一層の発展を出席者全員で祈念し



二宮代表

た。冒頭、あいさつに立った二宮代表は、官民の受託業務や、過去10年の歴史を説明。「技術士としての業務を顧客に理解され、社会貢献に注力してきた」とするとともに、さらなる10年に向け、迅速で適切なサービスを今

後も提供をしていくと決意を示した。式典では、記念講演が行われ、東京都オリンピック・パラリンピック準備局選手村担当の齊藤有部長が「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会について」と題して講演。競技場の整備状況などを説明した。続いて10周年記念誌が紹介され、全会員の自己PRが写真入りで紹介され、会の生い立ちを知る

とともに、この10年の歩みを振り返りながら、さらに明日へ向かって羽ばたくための礎としたいとされた。この後、会員が活動状況を報告。当日は▽技術士集団の新たなビジネスモデルを▽中小企業の中南米進出を支援いたします！ 中南米進出に向けたファイジビリティスタディのすすめ▽人と自然の共生にUAV（ドローン）を活用する▽防災・森林・鳥獣害対策への活用事例—について説明があった。

式典に続き行われた懇親会では、与党技術士議員連盟の事務局長を務める新妻秀規参議院議員が祝辞を述べ、会員数が100人を超え、周年記念誌も立派で感服したと称えた上で「卓越した技術力で社会に貢献される会の発展は喜ばしい限り」とし、議連としても精一杯応援するので今後も頑張ってもらいたいと期待を込めていた。

NPO法人建設技術監査センター（五艘章理事長）が本県で開いた12月度の理事会では、五艘理事長と来賓だった二宮代表、日本技術士会千葉県支部の川畑真一支部長、CNC前常務理事の有



岡正樹センター理事らが懇談、建設業の諸課題について技術士がいかに貢献できるかといった話題や若手育成の重要性、建設業による社会貢献などがさらに必要などとされた。二宮代表は会の発展に向け、他団体との協働・交流を深めた活動を展開している（本紙2018年12月19日付既報）。

次の10年の発展を祝い乾杯